

## 【概要】

### 2015年度 民間住宅ローン借換の追加実態調査

#### I 調査の概要

現在、民間住宅ローンの借入があり、2015年11月～2016年3月に借換をされた方を対象として借換による住宅ローンの金利タイプの変化などの事項について、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。回答数:259件

#### II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

##### 1 借換前後の金利タイプの変化は、「固定期間選択型 → 固定期間選択型」への借換割合が最も高い。<p. 3>

- ・借換前後の金利タイプの変化パターンの全体の変化に占める割合は、「固定期間選択型 → 固定期間選択型」が最も高く、全体の41.2%を占めている。
- ・次に割合が高いのは、「変動型 → 変動型」で、全体の17.9%を占めている。

##### 2 借換前後の金融機関業態の変化は、「都銀・信託 → 都銀・信託」への借換割合が最も高い。<p. 12>

- ・借換前後の金融機関業態の変化パターンの全体の変化に占める割合は、「都銀・信託 → 都銀・信託」が最も高く、全体の30.4%を占めている。

##### 3 借換までの経過年数は、経過期間「5年以下」と比較的早期の借換が最も多い。<p. 13>

- ・借換までの経過年数は、すべての金利タイプで経過期間「5年以下」と比較的早期の借換が最も多い。

##### 4 借換によって毎月返済額が減少した方の減少分の用途によって、借換者は消費型と貯蓄型の2つのグループに分かれる。<p. 20、p. 21>

- ・借換によって毎月返済額が減少した方の減少分の用途によって借換者を分類すると、「生活費」など消費に結びついた用途のグループと、「貯蓄」や「資産運用」など消費に直接関連しない用途のグループの2つに分かれると見ることも可能である。